

平成30年度 第1回宮代町食と農の研究会 会議録(要旨)

- 開催日時 平成30年9月27日(木) 午後2時00分～4時25分
- 場所 新しい村 村の集会所
- 出席者 <委員> 蛭田委員、島村委員、金子委員、湯浅委員、武笠委員、須藤委員、赤井委員、大門委員、北村委員、関永委員、殿塚委員、新井委員、小豆澤委員、長堀委員
<アドバイザー> 山本氏、小松氏、石井氏
<事務局> 菅原主幹、鈴木主査、中村主任
- 傍聴者 0名

■次第

- 1 開 会
- 2 町長あいさつ
- 3 委嘱状の交付
- 4 委員・アドバイザーの自己紹介
- 5 会長・副会長の選出
- 6 会議内容
 - (1)宮代町の農業の6次産業化の取組みについて
 - ・町の産業の現状
 - ・これまでの経緯
 - ・食と農の研究会の目的
 - (2)平成30年度の計画について
 - ・食と農の研究会の設置
 - ・6次化推進イベント「世界のすうぷ屋さん」の実施
 - ・郷土の味掘り起こし調査の展開
 - ・地産地消推進の店の認定事業について
 - (3)アドバイザーからの助言
 - (4)意見交換
- 7 次回の会議日程について
- 8 閉会

■ 会議内容

- (1)宮代町の農業の6次産業化の取組みについて
長堀委員から配布資料に基づき説明。
 - ・専業の高齢農家の増加、農業就業人口の減少、経営耕地面積の減少など、農業を取り巻く厳しい環境の中で、従来町が進めていた単独型の6次化は困難で、平成28年度から農商連携による6次化を推進するため、「6次化戦略研究会」を開催したが、メンバーを固定し、主体的に研究していく「食と農の研究会」の設置に至る。
 - 今後、農商連携による商品開発や地産地消の推進などの研究を進めていく。
- (2)平成30年度の計画について
事務局より配布資料に基づき説明
 - ・6次化推進イベント「世界のすうぷ屋さん」を11月25日(日)に開催する。
 - 従来の紫マルシェを見直し、6次化のPRだけでなく、人が繋がり、商品化のきっかけとなるように、企画から運営までを様々な業種の方々が、自発的にアイデアを出し合い、作り出している。

- ・郷土の味掘り起こし調査の展開

小松氏から調査ならびに伝統食発表会報告ときゅうりの佃煮の試食

(意見等)

委員：市販のきゅうりの漬物と比較して甘いように感じる。

アドバイザー：配合について再検討する。

- ・地産地消推進の店の認定事業について

事務局から配布資料に基づき説明。

宮代産農産物などの地場産品を積極的に取り扱う町内の店を「宮代町地産地消推進の店」として認定し、地産地消の取組みを町民に周知し、農産物の消費拡大と地域経済の活性化を図ろうという制度。町は認定店に共通の看板の贈呈の他、町広報や町HPへの掲載による支援を行う。

(意見等)

委員：地産地消推進店の認定について、安全基準はあるのか。

事務局：新しい村の出荷規準と同様である。

委員：流通に関する支援は？

事務局：店舗が直接農業者から仕入れてもいいし、新しい村を通して仕入れてもいいと考えている。

委員：店舗が欲しいものを農業者がどのように作るかが一番難しい問題。

一度メニューに入れたら、通年で販売したい。今は通年で手に入れられる作物がないのではないか。

アドバイザー：通年で同じ作物を作る人は複数の農家で取り組まないといけないしまたこの地域では通年ではできない作物もある。店舗が何が欲しいのかをよく聞き取り、品目を定めてやっていくべき。

事務局：JAや埼玉県からも情報を得て、作付農家の情報は広く収集し、提供していきたい。

(3)アドバイザーからの助言

- ・地産地消認定の店については他県の例を参照し、認定基準を再度検討すること
- ・加工品にはどうしてこれなのか、どうして宮代なのかストーリーが必要。

(4)意見交換

委員：会の方向性が見えない。たとえば、これを商品化していくというたたき台があればいいと思った。

事務局：町が狭い視野で作った提案ではなく、自由に考えていく会と思っしてほしい。

委員：新しい村を活性化することが優先と考えるが

事務局：もっと広い視野で町全体でお金が回るような仕組みを考えてほしい。

委員：同じものを作って宮代ブランドを立ち上げるイメージと考えるが賛同する農家がいるか心配。

アドバイザー：きちんと売る先が決まっていないものを作るから売れない。クライアントを見つけること。儲かる農業を目指そう。

■次回の会議日程

第2回は来年年明けに開催予定。